

実は凄いんだ、亀塚は

公園となる古墳の生い立ち

小田急線の高架を背に、狛江第三中学校の正門前の通りをまっすぐ進み、突き当たりを右に折れ、しばらく進むと、右手に新たに公園となる亀塚古墳があります。

亀塚古墳は、数ある狛江の古墳の中でも、とりわけ重要な古墳です。最大長約40m、高さ約7mを測り、帆立貝の形をした狛江で唯一の前方後円墳でした。残念ながら、現在の亀塚古墳は、往時の姿をほとんど留めていません。1950年頃から墳丘が削られはじめ、今では前方部の一部を残すのみとなっています…。



ありし日の亀塚古墳

1951年、墳丘が削られているのを目にした地元の有志は、亀塚古墳が壊されてしまうと危ぶみ、古墳を守るため緊急の発掘調査を行いました。この発掘調査の成果によって、亀塚古墳はその存在を広く知られるようになりました。出土した数々の副葬品から、その被葬者は狛江古墳群の盟主とされ、「狛江百塚」と呼ばれる古墳群に眠る者どもを従えていたのではないかと考えられました。



発掘当時の亀塚古墳

調査の様子を大勢の人が見学しています。人の大きさと比べると、亀塚古墳がいかに大きかったかがわかります。

出土品の中でも注目すべきは、「しんじん 神人歌舞画像鏡」と呼ばれる鏡で、その名のおり鏡面の裏に神人が歌舞する姿が鑄出されています。この鏡は、後漢の時代（後漢末に有名な三国志のストーリーが始まります）の中国にて造られたもので、それが狛江の亀塚古墳から発見されたのです。おそらく、中国からもたらされた鏡が、畿内の有力豪族の手に渡り、長い年月と多くの人の手を経て、亀塚古墳の被葬者の手に渡ったのではないかと考えられます。古代の中国で造られた鏡が狛江の古墳の長の手に渡る、想像してみるとなかなか壮大なストーリーです。



亀塚古墳から出土した神人歌舞画像鏡
現在は東京国立博物館に収蔵されています。
※画像は東京国立博物館HPより

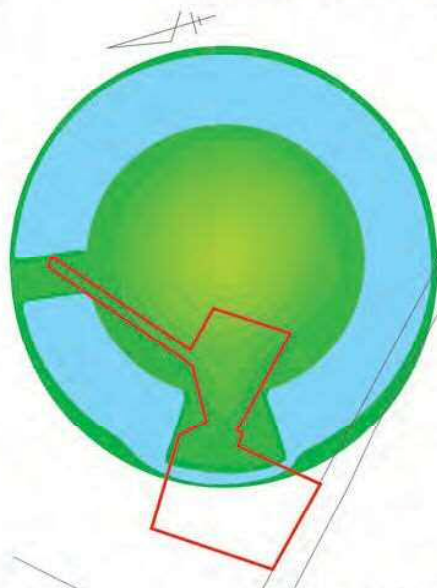
江戸時代、亀塚古墳はすでに「亀塚」と呼ばれ、村人たちは高貴な人が眠る墓ではないかと思っていました。亀塚古墳は、江戸時代においても特別な存在でした。

しかし、今から約60年前、亀塚古墳はその多くを失い、墳丘の一部と発掘調査の成果を高らかに刻む「狛江亀塚」の石碑が残るのみとなってしまいました。亀塚古墳を守るための発掘調査は、大いに成果をあげたものの、結果として古墳を守ることはできませんでした。

貴重な歴史遺産も、私たちが地域の宝として大切にし、次世代に伝えていこうとしなければ、簡単に失われてしまいます。今の亀塚古墳は、こうしたことを教訓として伝えていきます。



狛江亀塚の石碑



亀塚古墳の想像図
上から見るとちゃんと帆立貝の形に見えます。赤線内が公園として整備される範囲で、古墳の墳丘は、帆立貝の出っ張り部分（前方部）の一部が残るのみです。

